

第2次南丹市総合振興計画

南丹市の10年先の未来を見据えて
住民の「やってみたいこと」を集める
6日間のワークショップ



7/13



7/16



7/17



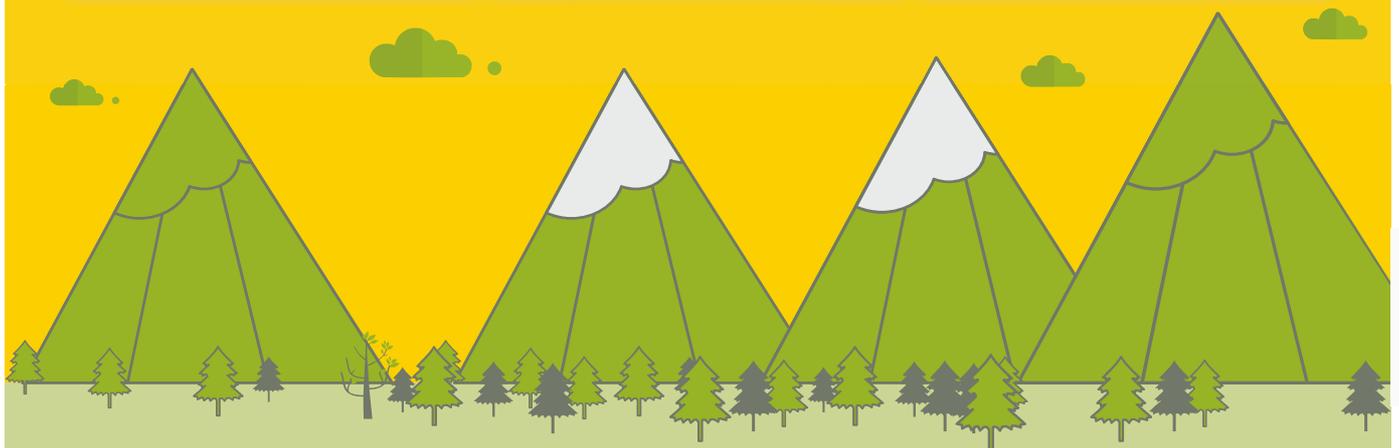
7/20



7/21



7/24



ワークショッププログラム

第2次南丹市総合振興計画は、南丹市で暮らす市民のみならずに参加いただき、みんなで南丹市のこれかを話し合い、計画づくりをすすめていくことを目指しています。ワークショップでは、以下のプログラムで話し合っていました。

- 1 開会
- 2 総合振興計画・ワークショップについて
- 3 ワーク：今の南丹市での暮らしを考えよう
- 4 南丹市の課題
- 5 ワーク：10年後の南丹市での暮らしを考えよう
- 6 発表



第2次南丹市総合振興計画 ワークショップについて

南丹市は、市誕生から10年以上が経過しました。そこで、平成28～29年度にかけて、この先10年間のまちづくりの指針となる第2次総合振興計画をつくっています。

この計画づくりの過程で、市民の方に意見を聞く中で、「計画書はなかなか見る機会がない!」との声をいただきました。そこで、市民の方にもわかりやすい計画書として、みなさんの声から地域で「やりたいこと」「やるべきこと」を整理した『これDOマップ』をつくりたいと考えています。このマップはこれからの地域づくりの指針として活用していく予定です。今回、各地域3回計12回の連続ワークショップで、地域のみなさんの意見を集めました。

これDOマップをつくる流れ



ワークショップのスケジュール

ワークショップは、園部、八木、日吉、美山の各地区で3回ずつ「環境資源の活用/南丹ブランド」「災害への備え/保健・医療・福祉」「地域教育/地域コミュニティ」のテーマで実施しました。

日吉 7/13 (木) 14:00-16:00 日吉支所3階 第1会議室 検討テーマ 環境資源の活用 南丹ブランド	美山 7/13 (木) 19:00-21:00 美山文化ホール1階 第1、2、3会議室 検討テーマ 環境資源の活用 南丹ブランド	日吉 7/16 (日) 14:00-16:00 日吉支所3階 第1会議室 検討テーマ 災害への備え 保健・医療・福祉	園部 7/16 (日) 19:00-21:00 南丹市役所3号庁舎 2階第4会議室 検討テーマ 環境資源の活用 南丹ブランド	美山 7/17 (月・祝) 14:00-16:00 美山支所1階 大会議室 検討テーマ 災害への備え 保健・医療・福祉	八木 7/17 (月・祝) 19:00-21:00 八木支所3階 防災ホール 検討テーマ 環境資源の活用 南丹ブランド
美山 7/20 (木) 14:00-16:00 美山支所1階 大会議室 検討テーマ 地域教育 地域コミュニティ	日吉 7/20 (木) 19:00-21:00 日吉支所3階 第1会議室 検討テーマ 地域教育 地域コミュニティ	園部 7/21 (金) 14:00-16:00 南丹市役所2号庁舎 3階301会議室 検討テーマ 災害への備え 保健・医療・福祉	八木 7/21 (金) 19:00-21:00 八木支所3階 防災ホール 検討テーマ 災害への備え 保健・医療・福祉	八木 7/24 (月) 14:00-16:00 八木支所3階 防災ホール 検討テーマ 地域教育 地域コミュニティ	園部 7/24 (月) 19:00-21:00 南丹市役所2号庁舎 3階301会議室 検討テーマ 地域教育 地域コミュニティ

ワーク1「今の南丹市での暮らしを考えよう」

ワークショップは、現在、つくっている計画について説明したうえで、地域の10年後をイメージしながら、10年後に叶えておきたい分野別の取り組みを考えていきました。まずは個人の今の暮らしを「お仕事」「家族」「住まい」「休日」「ご近所さん・地域」「友人関係」などシートに書き出し、自己紹介をしていきました。



南丹市の課題

計画づくりを進めていく中で、南丹市で活躍されている市民の方にお話をうかがう市民ヒアリングや、南丹市各課への庁内ヒアリングを実施してきました。その中で、南丹市が抱える課題を「環境資源の活用／南丹ブランド」「災害への備え／保健・医療・福祉」「地域教育／地域コミュニティ」の3つのテーマに整理し、それぞれの目指すべき方向性を検討してきました。市民ワークショップでは、これらの3つのテーマについて、市民のみなさんにとって、より身近で具体的にイメージできるビジョンを話し合っていました。また、そのためのインプットとして、それぞれのテーマについて時代潮流をふまえた方向性をイメージできるような事例を共有しました。

環境資源の活用／南丹ブランド

地域ブランディングの取り組みとして、瀬戸内海の家島（姫路市）の事例と、堺市の泉北ニュータウンの情報発信プロジェクトの事例を共有しました。家島は、大学生を募集しフィールドワークを実施していく中で、島の暮らしの中にある魅力を掘り起こしていく取り組みです。島では普通の暮らしの風景や、あたたかな島の人たちとの交流こそが魅力であることを町民の人たち自身が外からの視点にふれることで気づき、まちづくりの取り組みへとつながっています。泉北ニュータウンでは、まちの資源を活用した活動を生み出し、活動のプロセスを含めた自作自演の情報発信することで、コアなファンづくりにつなげる取り組みを進めています。



災害への備え／保健・医療・福祉

全国でも高齢化が進んでいる秋田県。秋田市では「高齢者にやさしい都市」、健康な高齢者はもちろん、介護が必要な高齢者や障がい者、子育て中の親や子どもなど、誰にでもやさしいまちを目指してエイジフレンドリーシティ構想を掲げています。取り組みの一環として、高齢者の暮らしをリサーチした展覧会「2240スタイル」を開催しました。その中でいくつか浮かび上がってきた高齢でも元気に暮らしていくための秘訣の一つは、歳の差のある友人を持つことでした。現在、食や音楽などの活動を通して、年の差のある友人を3名つくることを目指した「年の差フレンドズ」というプロジェクトを進めています。



地域教育／地域コミュニティ

島根県海士町では、総合計画づくりの中で課題としてあげられた島前高校の魅力化に町民と行政が一緒になって取り組んでいます。町外からの学生を募集する「島留学」という取り組みや、町内の子どもたちの学力を伸ばす学習塾の運営、また、地域活動へ参加する機会をたくさん設け、地域全体で教育を支える取り組みを進めています。

また、島根県雲南市では小規模多機能自治というしくみで地域運営に取り組んでいます。小学校単位で事業体を形成し、水道料金の徴収など、行政からの委託事業などをうけ、地域の取り組みを自主運営しています。



園部地区：ワーク2「10年後の南丹市での暮らしを考えよう」

第1回 南丹ブランド／環境資源の活用



日時：7月16日 19:00-21:00 参加者：7名

<ワークショップで話し合った意見>

これまでにない働き方が実現できる

- ・3つ4つ事業が展開できる
- ・2拠点居住のメッカ

南丹市のブランドイメージがある

- ・ものづくりの町、小さな工房を募集
 - ・まちなかから一山超えたら自然になる
 - ・園部にも実は林業組合がある
(林業女子がチェーンソーアートしている)
 - ・古民家、旧銭湯、教会を活用(古民家シェアハウスの運営)
- 自慢したくなる農業がたくさんある
- ・地産地消のプロセスを見せる
 - ・学生と地域のつながり「農業」「林業」

第2回 災害への備え／保健・医療・福祉



日時：7月21日 14:00-16:00 参加者：6名

<ワークショップで話し合った意見>

災害に負けない地域づくり

- ・消防団の証明書があればスーパーで割引がある
 - ・地域で歩いてマップをつくる
 - ・気候変動の激変への対応を情報共有するしくみ
- 災害のとき、すぐに助け合える地域のつながり
- ・100円くらいから参加できる地域内の支援金制度
 - ・高齢者×若者(そこそこの年の差フレンズをつくる)
 - ・独居の高齢者宅に学生が住み込む
 - ・子供向けの防災訓練

徹底した森林の管理ができています

- ・山と川(入っていい場所、所有者など)情報整理と共有
- ・林業のバイトが気軽にできる

第3回 地域教育／地域コミュニティ



日時：7月24日 19:00-21:00 参加者：14名

<ワークショップで話し合った意見>

学び・交流の場がたくさんある

- ・障害のある人、引きこもりの人たちが気軽に集まれる場
- ・自由保育(古民家リノベーション、自然環境を活かす)

多機能学校がある

- ・市が認めるフリースクール
- ・まちづくりのワークショップに小・中・高生も参加する

幅広い世代が交流できる

- ・子どもを連れて参加できる集まりがたくさんある

日常的に強いつながり意識がある

- ・モノとモノ、スキルとスキルを交換できる場

後世に伝えていく里山文化がたくさんある

- ・今、すでにある魅力を整理してわかりやすく発信する

八木地区：ワーク2「10年後の南丹市での暮らしを考えよう」

第1回 南丹ブランド／環境資源の活用



日時：7月17日 19:00-21:00 参加者：11名

<ワークショップで話し合った意見>

南丹市のブランドイメージがある

- ・マニア向けの観光資源、魅力がたくさんある
- ・エネルギー自給率の高いまち

公共施設を活用した体験交流がある

- ・廃レールの建物八木駅の活用
- ・吉富小学校の活用

自慢したくなる農業がたくさんある

- ・種をつくっているまち
- ・農家の食卓を動画配信する

循環する仕組みがある

- ・地区で利用できる地域通貨
- ・地元の農作物を地元でまわす（地産地消）

第2回 災害への備え／保健・医療・福祉



日時：7月21日 19:00-21:00 参加者：7名

<ワークショップで話し合った意見>

災害に負けない地域づくり

- ・日常的に避難訓練ウォーキング
- ・地域ごとに約束事を決めておく、秘密のルール（防犯）

ハイテクな里山環境がある

- ・地域のサイレンと防災無線の連動
- ・CATVの活用

車がなくなっても、スイスイ出歩ける

- ・ゴルフカートのような高齢者でも運転できる電気自動車

地域全体で子どもを育てる

- ・他人の子どもを叱れる関係

地域全体で健康を考える機会がたくさんある

- ・オシャレなおばあちゃん、オシャレなおじいちゃん

第3回 地域教育／地域コミュニティ



日時：7月24日 14:00-16:00 参加者：6名

<ワークショップで話し合った意見>

山間部ならではの濃密教育

- ・山で学ぶ、里で学ぶ、田畑で学ぶ
- ・山村留学（美山まで行かなくても、八木でできる）

多機能型学校がある

- ・地域の技を持った人と交流できる学校
- ・都会からも入学したい学校

後世に伝えていく里山文化がたくさん残っている

- ・子どものうちから南丹市の好きなのところを10コいえる
- ・文化度が高い！ホンモノに触れられる

日常的に強いつながり意識がある

- ・地域通貨があるまち
- ・おじいちゃんおばあちゃん、世代同士で子育てをシェア

日吉地区：ワーク2「10年後の南丹市での暮らしを考えよう」

第1回 南丹ブランド／環境資源の活用



日時：7月13日 14:00-16:00 参加者：8名

<ワークショップで話し合った意見>

南丹市のブランドイメージがある

- ・ハンティング学校の設定
 - ・家具・美術品の再生リニューアル
- これまでにない働き方が実現できる
- ・どんな働き方もできる市を目指す
 - ・ももとの仕事とこれからの仕事のダブルワーク（農・林・漁）×（IT、Web、AI）

若者が憧れるかっこいい農村生活がある

- ・暮らし体験ができる移住ツーリズム
- 外国人をターゲットにした環境事業の展開ができる
- ・簡単な挨拶、習慣を知る仕組み
 - ・海外で連携している学校と南丹市をつなぐ

第2回 災害への備え／保健・医療・福祉



日時：7月16日 14:00-16:00 参加者：6名

<ワークショップで話し合った意見>

災害に負けない地域づくり

- ・過去の災害の事例を知る機会をつくる
 - ・昔ながらの生活を学べる地域（薪を使うなど）
- 災害のときにすぐに助け合える地域のつながり

- ・隣近所と声かけができる仕組み

徹底した森林の管理ができています

- ・木質バイオマスが日々を支えるエネルギーとして定着車がなくなってもスイスイ出歩ける
 - ・簡単に予約ができるデマンドバスが縦横無尽に走る
 - ・近所で映画などを楽しみに集まる場所がある
- 地域全体で健康を考える機会がたくさんある
- ・健康な食事がみんなのできる機会を増やす

第3回 地域教育／地域コミュニティ



日時：7月20日 19:00-21:00 参加者：10名

<ワークショップで話し合った意見>

山間部ならではの濃密教育

- ・近所ホームステイ（親戚ではない近所の人の自宅）

多機能型学校がある

- ・コミュニティスクールの発展・活用
- ・南丹市シニア大学を開校

学び・交流の機会がある

- ・子どもだけではなく、どの世代も学び続けられる
 - ・「本気」の大人を見せる、触れ合う機会をつくる
- 後世に伝えていく里山の文化がたくさんある

- ・住んでいる人が「好き」といえるまち

幅広い世代が交流できる

- ・人が「集まりたい」ミニイベントがあふれるまち

美山地区：ワーク2「10年後の南丹市での暮らしを考えよう」

第1回 南丹ブランド／環境資源の活用



日時：7月13日 19:00-21:00 参加者：7名

＜ワークショップで話し合った意見＞

南丹市のブランドイメージがある

- ・かやぶき民家の保存

若者が憧れるかっこいい農村生活がある

- ・田舎で暮らす人は何でもすぐには買わずに自分で直す、自分で造るなど生きる力を持っている
- ・見せる農業（牛で田すきなど）

都市部にはない自然体験ができる

- ・草刈りツアー
- ・農業・林業が体験できる（長期の暮らし体験）

循環する仕組みがある

- ・物々交換できる
- ・美山鎖国（ブータンみたいに入場料を取る）

第2回 災害への備え／保健・医療・福祉



日時：7月17日 14:00-16:00 参加者：5名

＜ワークショップで話し合った意見＞

災害に負けない地域

- ・災害時の避難場所は小さい単位で自分たちで決める
- ・防災無線を地域で活用する（地域のイベント情報など）

災害の時にすぐに助け合える地域のつながりがある

- ・消防団員であるメリットをつくる

徹底して森林の管理ができています

- ・大地の再生講座を開催したい

ハイテクな里山環境がある

- ・どこでもネットがつながる環境

域全体で健康を考える機会がたくさんある

- ・急に不健康になるわけではないので、子どものころからの健康づくりの取り組みを進める

第3回 地域教育／地域コミュニティ



日時：7月20日 14:00-16:00 参加者：8名

＜ワークショップで話し合った意見＞

山間部ならではの濃密教育

- ・小学校、中学校で農業を必須で教える
 - ・地域の人が指導員、先生になれる（農業、IT、茅葺）
 - ・美山学（コミュニティスクール）を活かした取り組み
- #### 多機能型学校がある

- ・美山なのに国際的な教育も最先端

若い人がバリバリ活躍できる地域に

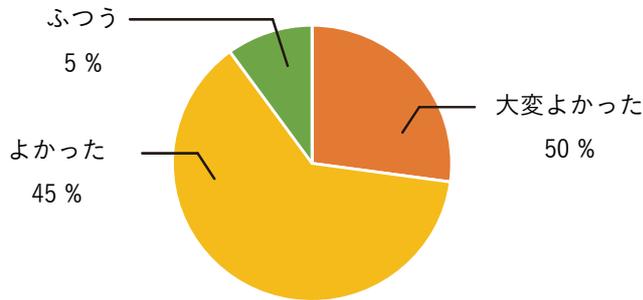
- ・子連れで働くことができる環境が整っている
- ・心と経済の関係を大切にできる地域

幅広い世代が交流できる

- ・老いも若きもお互いに協力し合える
- ・地域の人と外に出てた人をつなぐ地域のお祭りを継続

ふりかえりアンケート

満足度



6日間計12回のワークショップには、延べ95名の市民のみなさんが参加してくださいました。参加者の多くが「大変よかった」または「よかった」と回答いただきました。参加のハードルをさげ、もっと多様な方に参加いただく工夫が必要との意見が多く上げられました。

ワークショップで印象に残ったこと

いろいろな考え方、価値観の意見を聞いたこと／様々な世代の方が集まっておられいろいろな意見を聞くことができてよかった／色々な職種の方と話し会える場となり、全く知らなかった角度からの情報もあり学んだこと／もっと時間があったらと思う／自ら考えることだけでなく、ほかの地域(秋田)の取り組みの事例を知ることがよかった／市の職員さんが多かったこと。もう少し一般の人の参加がほしい／南丹市の各地域の方、昔から住んでいる方、移住者の方、の経験、考え方を聞くことができた

今後開催する住民ワークショップで期待すること

もう少し多くの方が参加する工夫が必要／他の計画やまちづくりの方針などでも住民と行政がともに意見交換できる場づくりを積極的に行っていければよいと思った／わかりやすく住民の方へひろうする会があればいい／高校生、大学生などに参加してもらいたい／ワークショップの中で出された様々な意見をより深く検証する必要がある／どうすれば参加しやすいかハードルが下がる良い方法があればもっと市民の意見が反映できるのと思います

ワークショップのお知らせ

市民の方にもわかりやすい計画書として、今回のワークショップで集めた市民のみなさんの意見を整理した『これDO マップ』をつくっていきます。このマップはこれからの地域づくりの指針として活用していく予定です。マップの編集作業の中でも、地域のみなさんのアイデアや意見を反映する機会をつくっていきますので、マップづくりにも参加いただき、地域に対する思いを教えてください。

これDO マップをつくる流れ



studio-L

studio-L (スタジオエル) は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住むひとたちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合復興計画など、まちづくりのワークショップや住民参画の総合計画づくりなどに携わっている。